

外務省での勤務

平成 30 年 4 月
外交実務研修員 藤田 佑樹
(佐賀県より派遣)

1 はじめに

外務本省における勤務も早くも 2 年目に突入しました。私は佐賀県より外交実務研修員として出向させていただいており、大臣官房組織の中の人物交流室に所属しております。本年 4 月には地方連携推進室でも短期研修をさせていただきましたが、ここでは主に人物交流室の業務を中心に述べさせていただきます。

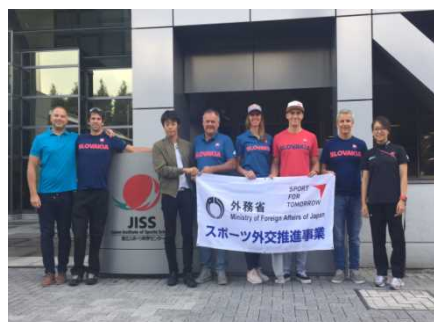
2 人物交流室での勤務

人物交流事業の促進を担っている人物交流室は、事業が多分野に亘ることから、例えば国費留学生等の案件を取り扱う留学生交流班、外国青年を地方自治体等で任用し、語学指導等を行う“JET プログラム”を取り扱う JET 班、そして私が属しているスポーツ交流班があります。私がいるスポーツ交流班は、普段からスポーツ庁(文部科学省)や日本オリンピック委員会、各国内競技団体と連絡を取り合うことが多く、アスリートの方々とお会いする機会も多々あります。以下にスポーツ交流班の主要業務を 2 つ紹介させていただきます。

(1) スポーツ外交推進事業

この事業は 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、スポーツを活用した外交を推進し、親日派・知日派を育成することで国際相互理解の増進及び国際平和に寄与するとともに、国際場裡における日本のスポーツ関係者の地位向上に貢献することを目的に、平成 27 年度から実施しております。各国内協議団体や在外公館からの要望に基づき、当該趣旨に合致した案件の中から年度単位で審査し、実施しております。具体的には、相手国の競技力向上や国際理解を目的とした選手・指導者等の「派遣事業」「招聘事業」、国内競技団体等が海外(主に途上国)に対しスポーツ用品等を供与する場合に輸送面で支援する「器材輸送支援事業」、海外で開催される大規模国際大会や国際会合の機会を捉え、在外公館において関係者間で人脈構築を図る「レセプション事業」が挙げられます。

その中でも昨年度、私はスロバキアからのカヌー関係者及びパキスタンからのスキー関係者の招聘事業に深く関与させていただき、国内競技団体や接遇業者等とのトレーニングや視察場所の調整のほか、外務省主催の昼食会に同席しました。事業の最後にアンケートを取るのですが、招聘者のほぼ全員が日本の先進的な競技施設及び練習環



スロバキア・カヌー招聘事業

境に大変満足して母国に帰国されます。また、「日本人は優しい」「食が美味しい」という感想も多いのが大変印象的でした。

このスポーツ外交推進事業は、日本の競技力向上のためではなく、比較的日本のレベルが高い競技における“相手国での競技力向上”を主な目的としており、この事業を最初に知った時には率直に素晴らしい貢献活動であると思いました。この活動が功を奏し、裨益者(国・地域)がオリンピック・パラリンピック競技大会等の国際大会でメダル争いをする日が来ることを期待しています。これまでの実施事業は外務省HP「外交政策」の中でも紹介しておりますのでぜひご覧ください！

http://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/ep/page24_000800.html

(2) オリンピック・パラリンピック競技大会

先般、平昌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。日本は同オリンピックで合計13個のメダル(金:4, 銀:5, 銅:4)を獲得し、1998年長野大会の10



当時建設中の平昌メインスタジアム

個を上回り過去最多を更新し、大いに盛り上がったのも皆様の記憶に新しいことかと思えます。当室ではオリンピック・パラリンピック業務についても、スポーツ庁や日本オリンピック委員会と緊密に連携しながら行っております。この平昌大会では渡航要人に関する日程調整等、主に要人対応を担当しました。また、開催前には現地にも出張し、大会関連施設の視察や在韓国日本大使館と本番に向けた調整を行いました。このようにオリンピック・

パラリンピックを身近に感じることができるのも、人物交流室で勤務しているからこそであると思っております。

次のオリンピック・パラリンピック開催地は「東京」です。平昌大会も終わり、これから東京大会に向けての準備が本格化していきます。私も室内で結成されている東京大会の準備チームに加わり、大会組織委員会や関係省庁との打合せにも出席しているほか、担当になっている各国要人の訪問関連の作業も徐々にですが進めております。更に、前年の2019年には「ラグビーワールドカップ」が開催されますが、在外公館における広報など関係者間の調整業務を行っています。サッカーのワールドカップ同様非常に大きな国際スポーツ大会であり、伝統国以外での初開催及びアジア初開催となります。また、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関しては競技施設のほとんどが首都圏近郊に集約されていますが、このラグビーワールドカップは全国各地が会場となっているのが特徴です。地方自治体から出向している私としては、開催自治体及び近隣自治体にとって、試合開催による観戦客(観光客)増や選手等との文化交流等で実りある大会となることを願っています。

このように連続で日本開催の超大型国際スポーツ大会が2つ控える特別な時期にその業務に携わり、大変貴重な経験をさせてもらっています。両大会とも、国内外の方々にとって深く印象に残るものとなるよう、また少しでも一助となるように引き続き2年目も尽力したいと思います。

3 地方連携推進室での勤務

冒頭でも述べましたが、今年4月には地方連携推進室で短期研修をさせていただきました。文字通り外務省内における自治体の窓口となっております。人物交流室ではスポーツ関係者とやり取りすることが多かったですが、地方連携推進室では全国各地の自治体の方々と、主に首長や職員の皆様の海外渡航に関しやり取りをさせていただきました。海外渡航に際しては、外務省作成のガイドラインの条件に当てはまれば渡航に関し報告をしていただく必要があるため、同内容に関する問合せや渡航先に関する質問を受けることが多くありました。地方連携推進室には全国の自治体の方々の海外渡航情報が集約されますが、都市交流・観光・流通・他多くの分野において積極的に海外へ事業展開している自治体が大変多くいらっしゃるということが分かりました。

4 おわりに

国際分野には以前から関心があり、県でも海外に関連した部署で出向直前まで働いていました。まさか外務省で、外務省員の皆様と同じ空間で勤務できるとは正直夢にも思っておりませんでした。最初は外務省ならではの(中央官庁ならではの?)の言葉や言い回し、事務手続等に慣れませんでした。室員の皆様に都度ご指導いただきながら日々業務に励んでおります。今回このような出向の機会を佐賀県と外務省に与えていただいたことに、大変感謝をしております。

また、こちらのグローバル外交ネットでも多くの歴代外交実務研修員の方々がレポートを残しているように、自治体から外務省に出向している方々は毎年10名程度いらっしゃいます。何が言いたいかわかりませんが、同じように自治体から出向している方々とも親交を深めることができるということです。外交実務研修員向けの研修の際や、私的な昼食、飲み会等で定期的に集まり、情報共有ができることも大変心強いです。この人脈は必ず自分が佐賀県に戻った際に役立つとともに、大きな財産となることを確信しております。